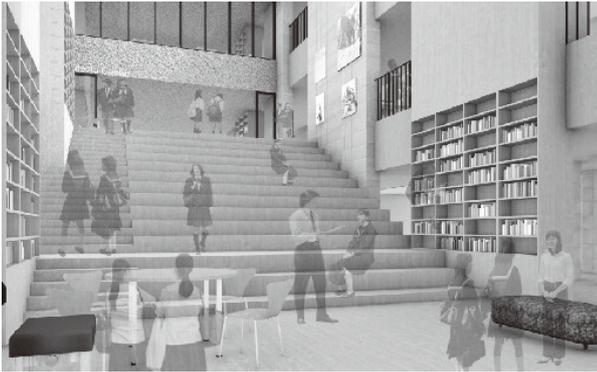


● 新中学校建設特別委員会

3月29日、4月10日、4月22日、5月15日、6月20日に委員会を開催しました。

まず、新中学校の大階段の設置等について、図面を基に議論しました。様々な意見が出されましたが、大階段は2か所設置する案で進めることとなりました。



また、地下横断歩道の設計について説明を受け、メンテナンスやセキュリティについて議論し、材質等の変更を求めました。

5月15日の特別委員会では、委員から出された課題について、議論すべき点を論点として議論しました。カリキュラムのこと、スクールバスのことなど、現在の進捗状況や考え方について議論しました。

委員からは中高の連携の方法や、考え方について多くの質疑がありました。

スクールバスについては、生徒の送迎に支障が生じないように、対策を講じる要望が出され、理事者からはアンケート等を通じたニーズ把握を行い、今後詳細を詰めていくとの回答がありました。

6月20日の特別委員会では、補助金の変更等に伴う設計変更内容の説明や、委員から提案があった、地下横断歩道の工法、内装仕上げの変更等について説明を受けました。

また給食室への食材等の搬入路や工事の際の車両の動線についても説明を受け、委員から様々な提案がありました。

今後、出された提案も含めて更に検討を重ねます。

本特別委員会では、勝山市の将来を担う子どもたち一人ひとりが、いきいきと活動できる、安全安心な学校が建設できるよう、今後とも議論を重ねてまいります。

一般質問 議:議員/理:理事者

- 中部縦貫自動車道から勝山恐竜橋のおもてなしについて
- 医療、介護及び福祉の人材確保に関する支援策について

その他の質問

- ・勝山中学校について
- ・市政について



李 江嵐議員



議 インターを降りてから橋を渡るまでの道のりは非常に多くの車が行き交う場所で『勝山へようこそ来ていただきました』という「おもてなしのこころ」を表現する絶好の場所の一つだと考えている。またよく使う道に彩りが加わることで市内にも賑わいが生まれるのではないかと考える。勝山を印象付け、ブランド力(リピート率)を高めていくための「ようこそ勝山市へ」等とメッセージを用意することは可能か。

理 勝山インターチェンジを降りてから勝山恐竜橋までの空地や道路擁壁、えちぜん鉄道陸橋等のスペース活用については、これまでも庁内で検討してきたが、様々な規制により実現できていないというのが現状である。

令和8年の中部縦貫自動車道県内全線開通を目指し、現在庁内でPRと受入態勢の強化について検討を進めている。インターを降りた観光客の皆様がワクワクするような、帰りにはまた来たいと思っていただけるようなイメージアップと受入態勢の強化を図っていきたい。

議 医療福祉分野の人材不足は急務である。現行の奨励金制度の申請状況について伺う。介護の現場においても人材不足の問題に頭を抱えている。奨励金の額を引き上げての支援をご検討いただきたい。場合によっては5年働くという条件も見直す必要があると考える。この提案に対する所見を伺う。

理 医療、介護及び障害福祉人材確保奨励金交付事業の交付状況について、平成29年度の制度開始から7年間における奨励金の交付対象者数は、医療機関従事者が9名、介護サービス等従事者が13名、障害福祉サービス等従事者が2名、計24名となっている。

少子高齢化が進み、医療、介護、福祉現場の人材不足も深刻となっている。昨年開催した市内の介護保険施設との人材確保対策に関する情報交換会で、職員の離職防止の取組や業務負担の軽減を図る取組等をお聞きした。他にも様々な機会に奨励金事業の充実にかかるご意見は頂いている。引き続き現場の皆様のご意見をお聞きし、人材確保に向けた支援を検討していく。